

さくら



本庄児玉病院

広報誌第20号

contents

- 精神科コラム
- 作業療法士室だより
- 院内行事・院内研修
- 外来患者延数・入院患者数
- 栄養課「ひな祭りメニュー」

〒367-0212

埼玉県本庄市児玉町児玉 720

Tel.0495-73-1611

Fax.0495-73-1616

精神科コラム

「精神の多様性」

これまでのコラムにおいて、主に生物学的な見地から「多様性」という言葉を度々用いてきた。今回改めて「多様性」について考えると共に、今後のコラムへも繋がる内容としたい。

「多様性」といった言葉を用いると、「リベラル」等のイデオロギーと結び付けられそうだが、筆者は生物種が極めて多様性に富むことや、同種内でも遺伝的多様性と様々な個体差があることなどから大事な概念だと考えている。しかし、そこに安易に「優劣」等の価値観を持ち込むことについては懸念している。「みな違って、みな優れている」と考えなければ、争いの火種は消えようがない。それ

もまた生物の営みの一部とも考えられるが、進化的観点から言えば、生存上の「優劣」については、最終的には「自然」がそれを決めるのであり、人知を超えた事象である。そうでなければ、ナチスのような優生学的思考に陥りかねない。そして、日本においても、優生思想が行政に取り入れられた過去もある。誰にも優生思想的な差別や偏見を、意識的にも無意識的にも持ちうるものと考えるし、本音では「己が優れている」と考える傾向を有することは知っておくべきであろう。

日本人なので日本が大事ではあるが、全人類も、全生物も、地球そのものも大事であるし、自分や自分の所属する組織が大事でもある。良い悪いでなく、遺伝子の利己的性質を考えれば、自分や血縁中心、自国中心、人類中心になるのも理解できるが、一方で、個々も人類も、それぞれ他者から成る社会や、他生物から成る生態系から孤立して存在しえないのも事実であろう。

先に触れたように、「右翼」や「左翼」、「保守」や「リベラル」といったイデオロギーがあるが、筆者はそれぞれについて不勉強であり詳しくないし、本当のところは単なるレッテル貼りなのではないか、それぞれの思想の中にも多様な考え方があり、極論すれば一人一人が細かいところで考え方が異なるのではないかと考えている。

以前のコラムでも触れたが、同様の環境で育った一卵性双生児でさえ異なるところはいくらでもある

るのだから、遺伝情報もその後の生育環境も、年齢や性も異なる多様な個々において、心身に様々な多様性がみられることは「自然」なことである。DNAも指紋も虹彩も、そして筆跡(サイン)でさえ、基本的に「オンリーワン」だからこそ、セキュリティや司法等での個体識別や証拠に用いられるのである。目指そうが目指すまいが、また望もうが望むまいが、生まれながらに誰もが「オンリーワン」なのは科学的事実である。

そして、顔や指紋などの形態以上に、複雑な神経系からなる精神は、器質的にもより多様であって不思議ではない。

人は表現するものに心、精神が現れる。バウムテスト、風景構成法などの描画テストのような心理検査もある。70億人いれば、70億通りの表現がある。さらに表現から何を感じ取るかにも心、精神が現れる。ロールシャッハテストなどの心理検査がある。70億人いれば、70億通りの感じ方がある。よって1枚の絵と、それを観る1人の印象の組み合わせは70億×70億通りある。さらに画家の画風が変わっていくことで分かるように、5歳、10歳、20歳、40歳では絵の表現が変わっていくし、その時々の精神状態でも異なる。一方観る側も、年齢と共に、そしてその時々の精神状態で見方は変わるので、芸術鑑賞という行為は常に無限の組み合わせからなる一期一会な貴重な体験なのである。これは音楽鑑賞や文学、マンガ、アニメなどのあらゆる創作物、さらには、人生における

様々な体験や人との出会いにも言えることである。

バウムテストの「正しい」描き方を教わるだろうか？「教育」にはそうした一面ある。描画法を学んだら、作品解説を読むのも大事なことであるが、自由な描き方、見方も大事であり、多様な表現と感性の一期一会を楽しむのも大事ではなからうか。

しかし、精神の多様性に対して、人や社会は必ずしも常に寛容ではない。国、文化、時代、そして世代等でも程度の差はあるが、例えば「和」を乱すような「変わりもの」は、一般的に社会から排除されやすい傾向がみられる。

ただ、これまで出会ってきた数多くの人々の中で、「全く同じ」という人に出会ったことがない。また、臨床場面においても、病態や治療法(薬の効き方等)が完全に同一という症例に出会ったことがない。つまり、「ケースバイケース」である。それが臨床のやり甲斐でもあり、難しさでもある。個体差や多様性が臨床の難しさであることは、精神科だけでなく、身体科の医師の誰もが感じることでもある。なお、今後の医療は、個々の遺伝情報等を基本にした個別化医療(テーラーメイド医療)へと向かっていくものと思われる。

また、多様な意見を尊重したい立場だが、「こうすれば必ず治る」、「こうすれば必ず成功する」

「こうすれば必ず儲かる」といった類の言説は、個々の身体や精神や能力の多様性を考える限り、筆者としては否定せざるをえない。

さて、「個々」ではなく「集団」を考えると、話はやや複雑となる。ある特定の目的を持った組織的集団においては、統一的であったり、全体主義的であったほうが、合理的な面もある。無論「それぞれ」だが、各国の軍隊や警察、刑務所、学校等では「服」などが統一的で、規則や上下関係等が厳しく、「個性」や「多様性」は必ずしも重視されない場合がある。組織を統治する側からみれば、統一的なほど管理しやすいはずである。ただ、組織と個人の利害が完全に一致していれば問題ないが、個々の多様性に基づいて多少の利害対立も生じうる。派閥等も生まれよう。

やや専門的でややこしい話となるが、進化生物学的には、個々の生存上の「淘汰」や「性淘汰」の他に、「血縁淘汰」もみられたが、「群淘汰」の考え方は否定されている。個々の用語の解説はここでは省かせていただくが、社会性を持つ生物種においては、他者との兼ね合いに気を配る必要があるものの(「ゲーム理論」等で説明される)、生存戦略上、他者との利害対立が生じる場合には、最終的に、もしくは結果的に、利己的な行動を取る個体やその子孫が生き残り、ひたすら自己犠牲的な個体とその子孫は淘汰されていく傾向にある。しかし、血縁者間においてのそれは必ずしも淘汰さ

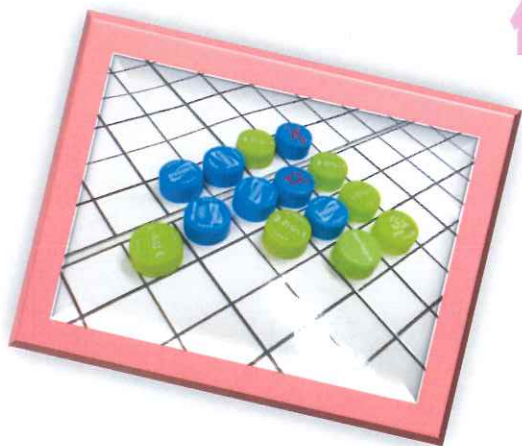
れるとは限らない(血縁淘汰説)。例えば、「親」の「子」に対する行動は、しばしば「自己犠牲的」である。だが、全く血縁的ではない集団のための自己犠牲的(非利己的)な行動も淘汰されてしまうのである(群淘汰説の否定)。

よって、その是非は別として(また筆者の価値観と一致しているわけではないが)、あくまで進化生物学的には、「組織」のために、常に自己犠牲的な精神は、「教育」や「洗脳」等されない限り、35億年の進化の歴史においてはごく最近である約20万年前の人類誕生時に、生得的性質としては、既に淘汰されていたものと考えられる。

それ故、たとえ全体主義的な集団内においても、多様な「個性」は可能な限り尊重されるべきものと考えているが、それもまた多様な考え方の一つである。

院長
高野 覚

作業療法士室だより



今回は、全2回の後半、小集団活動（余暇活動）について紹介したいと思います。 ※一部ユーモアが含まれています☆



かつどうめにゅー

「ゲーム」、「行事準備」、「園芸」
「DVD鑑賞」、「季節物の創作」

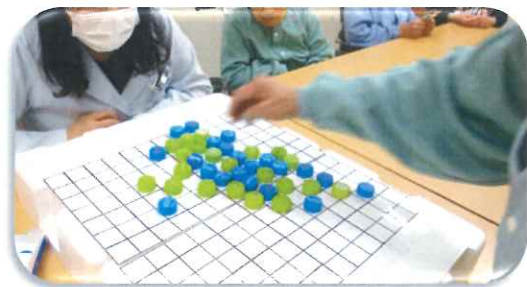
明日から
本気出す



～活動内容紹介のコーナー！！～

五目並べ

「当初は、将棋の盤を使いオセロの石を使っていた。ところが、オセロと混同し対決にならないことがあり、現在はペットボトルのキャップと、特製の盤を使用している。非常に使いやすい、見やすいと評判だ。」



トランプ

「患者さんから特に人気のあるゲームが七並べ、ババ抜き、ジジ抜き、神経衰弱だ。順番もこの流れが定着しているため、レギュラーメンバーの中には自主的に動く人も少なくない。行事には参加するが、決まらなかった（口癖化している？）と感想を話す人も、楽しかったと笑って話すほど好評だ。」



行事準備・季節物の創作

「病棟での活動中には難しい創作活動を行っている。院内の飾り・風物詩などを職員と協力して作製しているが、最近では、トランプがやりたいと、押し切られ、やりたがる人がいないのが現状だ・・・orz...」



園芸

「病棟での活動とは別物。実際に見て選んだ花を植えたり、水やりなど、それに伴う環境の整備等を天気と相談しながら行っている。当然ながら真夏・真冬は、やらない。」



手作りの五目並べセット

①

①盤面の土台！

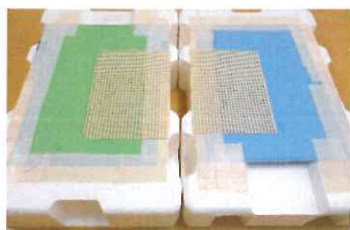
滑り止めの上に碁盤のシートをのせてできあがり★
ちなみに発泡スチロール製★

②マジックテープでドッキング！

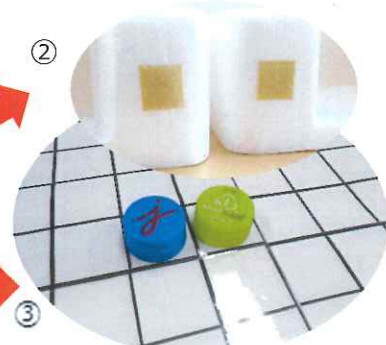
熱くなって、少々ぶつかっても大丈夫★

③碁石に見立てたペットボトルのキャップ！

安心して下さい！もちろん洗浄済★



②



③

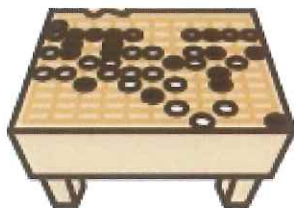


コーヒーブレイク



「五目並べ」

碁盤の上に黒、白の石1つずつ交互に置く。置く場所は原則として自由である。いったん置いた石は除かれない。先に自らの色の石を5個直線（縦、横、若しくは45度の斜め）に並べた方が勝ちである。



「トランプ」

英語では「(playing) cards」。遊戯やカードを意味するものではない。明治時代、外国人がこの遊びをしている際に「トランプ」と言っていたため、カードや遊戯そのものと勘違いし、日本では「トランプ」と呼ぶようになった。英語の「trump」は「切り札」を意味し、この語源は、勝利や征服を意味する「triumph」である。マークの由来は、スペードが剣を表し「王侯」、ダイヤは貨幣を表し「商業」、クラブは棍棒を表し「農業」、ハートは心臓ではなく聖杯を表し「聖職者」の象徴であるといわれている。（諸説あるが）



～序章 「きっかけ」～

当院での小集団活動（余暇活動）は、積極的に行事・活動に参加する患者さんから「なにか面白いことはないの？」という言葉と、病棟看護師からの「麻雀とか、**対戦相手**がいるのがいんだってね！」という言葉から生まれたといっても過言ではありません。以前、麻雀等の**相手の手の内を考る対戦形式のゲームが認知症予防になる**とTV放送されたこともあり、自身もやりたいと思っていた矢先のことでした。しかし、患者さんに聞くとやったことないという人も多く、躊躇していました。また以前病棟でトランプを行った際、患者さん同士がエキサイトしすぎて穏やかに進行しないことがありましたが、この度、小集団活動で復活させました。その他、オセロ、五目並べ、将棋等も行っています。花札は地域によりルールが違うので、やるには至っていませんが、最近では患者さんから「**UNOがやりたいね!**」と話があり、現在(2018年3月22日)検討中です。今後、「UNOできるよ!」という患者さんが多くなれば導入したいと思っています。

～最終章 「入院生活をより潤いあるものに」～

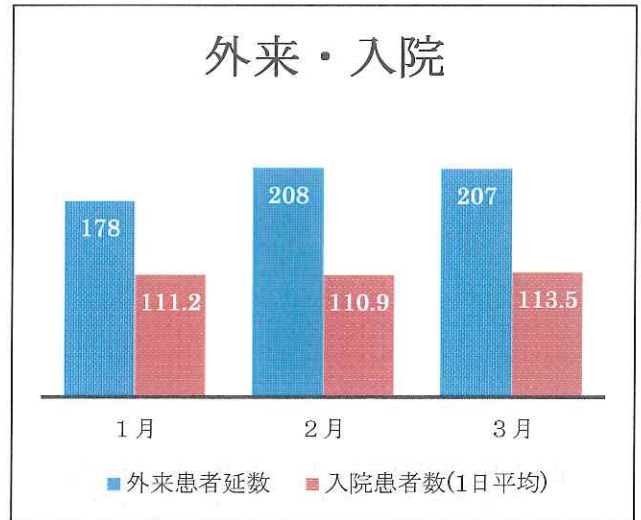
前回の大会活動では、「まずは参加」という事から、各々で「考えたり工夫したり楽しむ」、という一人ひとりが目的・目標を持って行えるということがポイントでした。また、大人数は参加しやすいというメリットがあります。普段から活動に関心の低い患者さんでも、「何やってるのかな?」と関心を持ち、「ちょっとのぞいてみるか」と足を止め、職員に声をかけられ「1回だけならいいよ」と参加し、何回も挑戦するケースも多いです。これには、集団力動、さらには日本人の集団行動・秩序を守ることを重んじる心理が働いているのがわかります。

小集団活動（余暇活動）は、病棟ではなく1階の静かな部屋に集まり、患者さんと職員合わせて10人ほどの、ある程度固定されたメンバーで行っています。常に中心となり参加をするカリスマ達の**レギュラーメンバー**、そのカリスマに誘われて参加をする**準レギュラーメンバー**、たまに参加する**スポットメンバー**で構成されています。最初はスポット参加で「楽しかったね」と話すくらいだった患者さんが、数を重ねるごとに、「次回もまた誘ってください」と、積極的になることもあります。病棟では口数も少なくウトウトしている患者さんも、ゲームに集中したりと普段では見られない姿が見られます。そして、特筆すべきは病棟の活動中では難しい**患者さん対職員の真剣勝負**ができることです。小集団活動を始めた頃は隣の人が手助けしたり、ペアを組んでチーム戦を行ったりしていましたが、現在は個人戦の真剣勝負を行っています。また職員も参加し、患者さんも職員もこの対戦を真剣に行っているため、患者さんが日々強く（認知面強化）なっている事を実感しています。また、職員も強くなっています。

限られた入院生活の中で、どんな些細なことでも「**楽しみ**」を持つということは、大切な事だと思います。「**楽しみ**」を持つことは、それが「**自発性・積極性**」につながり、受身ではなく自分で何かを決めるという「**自己選択・自己決定**」、それは「**老いの神話**」=（**肉体・精神の衰退**）というネガティブなイメージの打破にもつながると思います。しかし、病院という集団生活で「**自己選択・自己決定**」するという機会は決して多くないのが現状です。「**老いの神話**」を打破し、より生き生きとした潤いある生活を送るための「**楽しみ**」という**小さな武器**を今後増やす必要があると考えています。

外来診療担当医

	月	火	水	木	金
午前	高野	高野	齋藤	新谷	新谷
午後	齋藤	高野	齋藤	新谷	新谷



栄養課



ひな祭りメニュー



ちらし寿司、空也蒸し、菜の花の辛し和え、潮汁風を提供しました。

おやつは甘酒とひなあられ
又はイチゴの3層ゼリーを
提供しました。



ちらし寿司の具でエビは「腰が曲がるまで長生きしますように」、レンコンは「見通しがいい」、豆は「健康でまめに働きまめに生きる」という意味が込められているそうです。

縁起がいいものを食べて、春はみなさんで桜を見に行けるといいですね。



理念

患者さまの権利と尊厳を尊重し、笑顔と愛の心で
全人医療へ奉仕します

基本方針

- 1・私達は、地域に密着した精神科医療の提供と的確な認知症のケアを実践します。
- 2・私達は、患者さまの意思と人権を尊重し、心の通った、愛の心で医療を提供します。
- 3・私達は、患者さま並びにご家族の信頼を得、満足度の向上に努めます。
- 4・常に医療技術の研鑽と知識の習得に努め、安全で良質な医療を提供します。
- 5・私達は、理念達成のため、健全経営の維持向上に励みます。

患者さまの権利

当院では、患者さまと信頼関係で結ばれた「患者さま中心の医療」を行うことを目指しています。ここに「患者さまの権利と責任」を掲げ、これを尊重致します。

- ・安全で適切な医療を公平に受ける権利があります。
- ・人権とプライバシーに配慮される権利を有します。
- ・検査、治療、その他の医療行為に同意し、選択あるいは拒否することができます。拒否した場合においても不利益を生ずることなく、同様な治療を受けることができます。
- ・医療の情報を知り、セカンドオピニオンを受ける権利があります。
- ・精神保健福祉法等の法律に基づいた適切な手続きが保障される権利があります。

患者さまは、以上のもと、治療上のルールを守り、医療を受ける権利があります。

一診療科目一

精神科 平日 AM 9:00~12:00
PM 2:00~5:00

TEL 0495-73-1611

FAX 0495-73-1616

休診日 土曜日午後・日曜日・祝日・祭日
(土曜日午前)

入院随時 各種保険取扱い
完全予約制となっております。

一診療時間一



編集後記

三寒四温を肌で感じる今日この頃。一歩ずつ春になってきました！皆様、お花見はされましたか？年に一度のお花見は、風邪予防にも効果があるそうですよ！

桜とともに、春を楽しみ、一年元気にすごしましょう！



ストリートビューQRコード



施設周辺の道路沿いの風景をパノラマ写真でご覧いただけます。こちらのQRコードを読み取ってご利用ください。

院内の雰囲気もお楽しみいただけます！



編集発行

2018年4月

医療法人(社団)明雄会 本庄児玉病院

広報誌グループ

〒367-0212 埼玉県本庄市児玉町児玉 720

TEL. 0495-73-1611 fax. 0495-73-1616